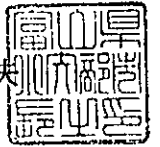


小 建 第 7 5 9 号

平成 20 年 10 月 20 日

国土交通省道路局長 殿

小矢部市長 桜井 森 夫



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（回答）

貴職におかれましては、日頃から本市の市勢発展並びに行政施策の推進につきまして格別のご理解とご高配を賜り厚く感謝申し上げます。

さて、今後の道路行政につきましては、別紙の項目についてご配慮頂きますようお願い申し上げます。

① 道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

富山県小矢部市

道路特定財源の一般財源化が閣議決定され次年度からの道路整備財源確保について地方もその成り行きを不安を抱きながら見守っております。時の流れにあわせ政策を見直す「行政改革」は必要であり断行されるべき行為であります。近年の行革は「公共事業＝悪」「道路はもういらない」と形の見えるものを標的に自己の論拠を展開する傾向が強すぎるように思われます。不必要な道路とは何処にあるのでしょうか、地方の実態をしっかりと認識した主張なのでしょうか。

現在地方では医師不足が深刻を極めています。緊急対応できる医療機関がどんどん遠くなっています。基幹病院までのアクセス道路を整備することは医療の一環です。市民にとって災害時に孤立集落にならないこと、雪が積もったら除雪車が来てくれること、消防車が通れる程の道幅が確保されていること、これらの安心・安全を担保することはもう福祉そのものであり、最もベーシックな道路行政への欲求であると思います。

道路特定財源の是非はともかく、公共交通機関の乏しい「地方」の市民は「都市」に比べ一人当たりでは数倍の税負担を行っていることは歴然とした事実です。これらのことを踏まえ以下2つの項目をお願いいたします。

1. 必要な道路整備を計画的且つ着実に推進するため、国が責任を持って道路整備財源を確保すること。
2. 国土の均衡ある発展を目指し、道路整備財源を地方へ重点的に配分すること

②—1 地域の現状と抱える課題

○現状

地方は都市部に比べ公共交通の整備率が低く、市民の移動手段を
自家用車に依存する割合は極めて大きい状況にあります。

そのため本市のような雪国では冬季の道路除雪は市民からの最も要望の強い行政サービスとなっております。近年は暖冬傾向にあると言われておりますが、平成 18 年豪雪は記憶に新しいところであります。これまで除雪作業は機械とオペレーターを共に有する地元建設業者が担ってきましたが、近年の公共事業の減少に伴い業者数の減少、自己保有車両の合理化等が進み、現行の除雪体制を堅持することとが年々難しくなっています。

また、除雪のみならず道路を健全な状態に保つための維持管理費（道路補修費）は人口減少時代に入り税収の伸びが期待できない地方都市において自治体経営の大きな負担となってきました。

○課題

企業団地や住宅団地の造成等により、後年地方自治体が管理する道路のボリュームは今後増え続けることが予想されます。

また、これまでに構築された橋梁に代表される社会資本ストックは経年に従いメンテナンス費用の増加を生み出します。

これらの補修事業が遅れることにより更なる事業費の増加を招きかねません。そして何よりも道路利用者の生命・財産を危険に晒すことになってまいります。

「橋梁の長寿命化修繕計画」をはじめとする社会資本補修計画を早期に策定することが課題となっています。勿論、計画を着実に実施するためには財政力の乏しい地方自治体に対し高率かつ活用しやすい助成制度の創設が重要であると考えられます。

小矢部市では平成 21 年度から、「魅力・安心・充実 しあわせ おやべ」を基本テーマに第 6 次 小矢部市総合計画をスタートさせます。

- (1) 魅力＝地域の中で、子どもを生き育てやすく、創造的な教育が展開され、高齢者がいきいきと暮らすことができる、住んでみたいと思う魅力にかがやくまちづくり
- (2) 安心＝自然環境の保全活用やバリアフリーの市街地整備により、環境にやさしく、快適に住空間を保つ、住み続けたいと思う安心感あふれるまちづくり
- (3) 充実＝歴史文化を生かしながら、地域産業の活性化により、「人・もの・情報」の交流促進が図られ、住んで良かったと思う充実感ただようまちづくり

上記が本市の目指すべき将来像のイメージですが、当該計画に先立ち本市では平成 20 年度から地方道路整備臨時交付金を活用し、「高速交通体系を活かしたまちづくり」に取り組んでおります。

これは小矢部市には「稲葉山・宮島峡」「倶利伽羅」と2つの県定公園があり自然環境に恵まれていること、加えて「縄文桜町遺跡」「倶利伽羅源平古戦場」「歴史国道 北陸道」などの歴史文化遺産と「メルヘン公建物」「クロスランドタワー」などの観光資源が豊富にあります。また小矢部市は北陸自動車道・能越自動車道・東海北陸自動車道の結末点に位置し高速道路網の利用が非常に容易であります。しかしながら、これらを結びつけるネットワークが充分ではなく、魅力ある資源が有効に活用されているとは言えません。今年7月の東海北陸自動車道の全線開通を契機に高速交通体系からのアクセス向上による人・物の流れの創出と一層の交流人口の増加を目指すものであります。

今後の道路行政についての意見・提案

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

様式 ④

富山県小矢部市

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
・広域交流の活性	国道 8 号倶利伽羅トンネルの整備	北陸の大動脈である国道 8 号においてボトルネック状態にある倶利伽羅トンネルを整備することにより物流の円滑化、ツーリング愛好者や歩行者の安全が確保される。	
・総合的な交通安全 全対策及び危機 管理の強化	主要地方道砺波小矢部線の整備 (砺波市 神島～ 小矢部市 鷺島)	当該路線沿線(砺波市中神)には陸上自衛隊富山駐屯地があり、第 301 施設隊が常駐し有事にそなえております。この隊の活動範囲は富山県のみならず中部地方一円であり、当該路線は駐屯地から国道 8 号・能越道への最短かつ唯一の幹線道路であります。早期の整備により市民の安全安心が担保せれる。	